公民科

教科名	公　民	科目名	倫理
科目の目標	(1)　人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。 (2)　人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促進し、良識ある公民として必要な能力と態度を身に付ける。		
履修学年	3年	類型	文系
単位数	3単位	履修形態	選択履修
教科書	高校学校新倫理新訂版(清水書院)	副教材等	ﾃｵｰﾘｱ最新倫理資料集(新版2訂)(第一学習社) ﾊﾟｽﾎﾟｰﾄ倫理問題集(新訂第2版)(清水書院)

①　学習の目標…旭東DPのうち特に(認知力、共感力、探究力、創造力)を育成する。

(1)　倫理とは、人間関係における普遍の真理としての善、正義、幸福、愛を思索する科目です。そのため、先人たちがどのようにその本質を捉えようとしたのかという見方や考え方を認知し、思索する力を養います。

(2)　また、認知のための、時代や社会背景に対する共感力を育み、課題を見いだす探究力、そして、未来に向けた在り方生き方に対するあるべき姿を提案する創造力を養います。

(3)　旭東DPのうち認知力、共感力、探究力、創造力の各項目における達成評価表に基づく自己評価がA段階に達するものが90%以上となることを目指します。

②　学習内容と授業の進め方

(1)　教科書の単元に沿って、副教材等で補足し学習していきます。
現代社会や基礎社会で学習した内容を深めながら学習していきます。

(2)　ペア・グループワーク、要点の整理、振り返りを行い学習を進めていきます。
要点整理では先人の物事に対する見方や考え方認知するために重要となる視点を整理していきます。

(3)　特に、客観的な認知力を高めるためには、他者との見解の違いや共通点について認識することが重要となります。そのため、ペアやグループで対話する活動を積極的に取り入れます。

③　学習に当たっての留意点

(1)　大学入試共通テスト「倫理・政治経済」「倫理」受験に対応するためには、単なる用語や事項の暗記では不十分と考えられます。先人たちの見方や考え方といった視点の適切な認知を基礎に、多様化・複雑化する現代社会の中で確立した個の視点を身につけることが必要です。多様な課題を考察するにあたっては、先人たちの生きた社会・時代背景について多角的・多面的に探究することも大切です。「どのような状況で、何を目的に、どのような視点を持ったのか」という観点から「物事の本質を見る態度を身につける」訓練をしていきましょう。そのため、日頃から時事的問題・課題、多様なジャンルの書物等に触れ、多様なものの見方や考え方に共感しようとする態度が必要です。また、過去のセンター試験や共通テストのリード文や資料を読解して思考し、出題者の思想的観点について思索を深め、自己の価値観の形成の一助とすることも求められます。

(2)　「現代社会」及び地理歴史科における各科目内容との関連性を意識し、歴史的背景や地理的条件が思想に大きく影響を与えていることを理解すると効果的に学習できます。

④　評価の観点…学習指導要領上の観点と重視する旭東DPの関係性。

力・態度	学習指導要領の観点	S(価値創造的)	A(問題解決的)	B(標準的)	C(要改善)
認知力	知識・理解【知】	社会事象を具体化・抽象化して捉えることができる。	社会事象を多面的な視点で捉えることができる。	社会事象を主観と客観に分けて捉えることができる。	社会事象を主観で捉えることにとどまっている。
共感力	関心・意欲・態度【関】	他者や社会との関係性の中で、適切な自己の役割を見出そうとする。	自ら他者や社会と繋がろうとする。	他者の存在や社会の在り方を受け止めようとする。	自らの世界にとどまっている。
探究力	思考・判断・表現【思】 技能【技】	広げ・高め・深めるためさらに問い続けようとする。	自ら立てた問いに対し解決への道筋を探ろうとする。	自ら問いを立てようとする。	問いを与えられることにとどまっている。
創造力	関心・意欲・態度【関】	時代や社会の変動を見据えて、複合的な視点から新たな価値を提案しようとする。	特定の社会背景の中で、複合的な視点から新たな価値を生み出そうとする。	現状の課題を認識し、自ら次の段階を切り拓こうとする。	現状の社会に流されている。

⑤　評価の方法

上記の評価の観点を観点別に作成した定期考査と達成評価表に基づく自己評価によって評価します。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	第1編　現代に生きる自己の課題		青年期の積極的な意義と自己の生き方に関する課題に対する関心が高まっている。【関】 青年期の意義と課題について、自己の課題とつなげ、他者とともに生きる観点から多面的・多角的に考察し、豊かな自己形成に向けて探求している。【思】 収集した資料から、他者、社会や自然とのかかわりの観点から豊かな自己形成に向けた学習に役立つ情報を主体的かつ適切に活用している。【技】 青年期の意義について、自己確立の基礎を培う時期であることを理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。【知】
	第1章　人間とは何か		
	第2章　青年期の課題と自己形成		
		1　青年期の意義 2　自己の理解に向けて 3　豊かな自己実現のために	
	第2編　人間としての自覚と生き方		自己の生き方にかかわる課題の解決につながるものとして、人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などに対する関心が高まっている。【関】 自己の生き方にかかわる課題と人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などをつなげて、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題を見いだしている。【思】 人間の存在や価値にかかわる基本的な課題を探求する学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用している。【技】 自己の生き方にかかわる課題が、多くの先哲によって探求された課題と通じていることに気付き、それが人間の存在や価値にかかわる基本的な課題であることを理解している。【知】
	第1章　人生における哲学		
		1　神話から哲学へ 2　自然哲学とソフィスト 3　真の知への道ーソクラテス 4　理想主義的なあり方ープラトン 5　現実主義的なあり方ーアリストテレス 6　幸福をめぐる問いーヘレニズムの思想	
5	第2章　人生における宗教		
		第1節　キリスト教ー愛の宗教 1　ユダヤ教 2　イエスの思想 3　世界宗教への展開 第2節　イスラムー啓示と戒律の宗教 第3節　仏教ー悟りと慈悲の宗教 1　バラモン教 2　仏陀の思想 3　仏教のその後の展開	
	第3章　人生の知恵		前期中間考査 人生における芸術までを予定
		1　孔子と儒家の思想 2　儒教の展開 3　道家の思想	
	第4章　人生における芸術		
6	第3編　現代社会と倫理		現代の特質について、倫理的課題の観点から自己の課題とつなげて意欲的に考えようとしている。【関】 現代の特質のうち、人間としての在り方生き方にかかわりの深い課題を見いだしている。【思】 収集した資料の中から、今日に生きる人間の倫理的課題を大局的にとらえる学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用している。【技】 現代の特質について、倫理的視点から大局的に理解し、自己の課題とつなげて人格の形成に生かす知識として身につけている。【知】
	第1章　現代の特質と倫理的課題		
		1　科学技術の発達と今日の課題 2　現代社会の特質	
	第2章　現代社会を生きる倫理		
		第1節　人間の尊厳 1　自己肯定の精神 2　宗教観の転換 3　人間の偉大と限界 第2節　自然や科学技術と人間のかかわり 1　自然への目と科学的なものの見方 2　事実と経験の尊重 3　理性の光	
7		第3節　民主社会における人間のあり方 1　民主社会の原理 2　人権思想の展開 第4節　自己実現と幸福 1　人格の尊重と自由 2　自己実現と自由 3　幸福と功利 4　創造的知性と幸福	

8		第5節　個人と社会とのかかわり 1　人間性の回復を求めて 2　自己を見つめる 3　社会参加と奉仕	
9		第6節　生命への畏敬と他者の尊重 1　生命への畏敬 2　理性見直しと他者の尊重	前期期末考査　生命への畏敬と他者の尊重までを予定
10	第4編　国際社会に生きる日本人の自覚		日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己とのかかわりにおいてとらえ、意欲的に探求している。【関】 日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己形成の課題とつなげて、多面的・多角的に考察している。【思】 収集した資料の中から、日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質についての理解を深め国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について探求する学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用している。【技】 我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、日本人に見られる人間観、自然観、宗教観の特質を、自己とのかかわりにおいて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。【知】
	第1章	日本の風土と外来思想の受容	
		第1節　日本の風土と伝統 1　日本の風土と人々の生活 2　古代の人々の考え方 第2節　仏教の伝来と隆盛 1　仏教の移入－古代仏教の思想 2　仏教の土着化－鎌倉仏教の思想 第3節　儒教の日本化 1　儒教の伝来と朱子学 2　陽明学 3　古学 第4節　日本文化と国学 1　古典美の再発見 2　国学 第5節　近世庶民の思想 1　都市庶民の思想 2　農民の思想	
11		第6節　西洋近代思想の受容 1　西洋文明との接触 2　啓蒙思想と民権論 3　キリスト教の受容 4　国家主義の高まりと社会主義 5　近代的自我の成立 6　近代日本哲学の成立 7　近代日本の思想傾向への反省	後期中間考査　現代の日本と日本人としての自覚までを予定
	第2章	現代の日本と日本人としての自覚	
12	第5編　現代の諸課題と倫理		現代の諸事象における倫理的諸課題に対する関心が高まっている。【関】 現代の諸事象について、倫理的視点から課題を見いだしている。【思】 収集した資料から、現代の倫理的諸課題と自己の課題とを関連付けて探究するための情報を主体的かつ適切に選択して活用できる。【技】 生命の価値、生と死の問題、他の生命体との共存関係、地球規模での人類の責任など、「生命」や「環境」について、自然と人間とのかかわりを視点とし、自己の生き方と関連させ人格の形成に生かす知識として身に付けている。【知】
	第1章	生命と倫理	
	第2章	環境と倫理	
	第3章	現代の家族とその課題	
	第4章	地域社会の変容とその課題	
	第5章	情報社会とその課題	
	第6章	グローバル化の時代と倫理	
	第7章	人間の福祉と国際社会	